



あなたの『思い』を『政策』に変える。

過去の J.I. メールニュース

J.I.メールニュース

タイトル: [マスコミの報道姿勢は変えられないのか？](#)

■ 近藤 節夫 (エッセイスト・(社)日本ペンクラブ会員・NPO法人「知的生産の技術研究会」会員)

2005.06.18

いまのマスコミには、現場で事実肉薄して原因を探り、ニュースを採り上げるという真摯な姿勢が見られない。JR福知山線脱線事故にしても、JR西日本の体質とその生贄となった運転士の無謀運転ばかりが指摘されているが、かつて私鉄駅に勤務したことがある経験上言わせてもらえば、電車の遅延は運転士の運転技術より、車掌の作業巧拙と責任の方が遥かに大きい。しかしながら、巷間報道されている限りでは、車掌の責任はほとんど追求されず、運転士のスピード違反のみが取り上げられている。マスコミは、改めて現場職員である運転士、車掌、駅員の声を聞いてみるがいい。

車掌の客扱いの巧拙、それに駅員の協力によって、いかに電車が遅滞なくスムーズに運行されるかということは誰も知っている。遅延時分を過速度運転によって取り戻すことなぞ微々たるものである。車掌と駅員の協力がなければ、定時運転は幸運に委ねるしかない。だから、運転士は乗務直前に、その電車は客扱いの巧い車掌が乗務しているかどうかをひどく気にする。残念ながら、マスコミはこの点でJR車掌の声をまるで聞こうとしなかった。新聞、テレビ報道を見ていてマスコミが現場取材していないことは私にはすぐ分かった。JR西日本が、責任範囲が広く全車掌に拡大するのを恐れて意図的に車掌をマスコミから隔離させたか、マスコミがプロの目で

臨場感をもって現場を見ようとしなかったか、のどちらかである。その気になって現場へ足を運び、車掌や駅員に対して取材をすれば、事故の遠因は世上指摘された原因以外にも解明出来たはずであり、実態に即した再発防止策も講じられたはずである。今回の事故に関しては、実態に肉薄しなかったマスコミの怠慢が、真の原因をぼかしてしまったとしか思えない。私はニュースの信憑性と訴求力は、現場取材力と臨場感の有無にあると思っている。マスコミは謙虚に反省して、改めて取材の原点と本質は何かを考えるべきである。